

タウン ガイド

ミュージア川崎 シンフォニーホール

「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして2004年7月1日にオープンしたミュージアは、約2000人収容のワインヤード形式の大ホールを有し、クラシック音楽の拠点として活動を展開しています。

「ミュージアが目指しているのは、国際レベルのクラシック音楽を市民に発信することと、市民に発表の場を提供するという事です。とは今回お話をうかがった田巻さん(ミュージア川崎シンフォニーホール事務部長)の弁...

ミュージア主催の「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2006」(7/21~8/13)やランチタイムコンサート(月1回程度)は価格を抑え、より身近にかつ上質なクラシック音楽に親んでもらえるように企画されています。素晴らしい音響設備を誇る大ホールは一見の価値あります。ホールの見学を兼ねて、ぜひ多くの市民の方にこれらの催しに足を運んでいただきたいと思いました。9月9日には友好都市締結10周年記念コンサートとして韓国、



ミュージア川崎シンフォニーホール 大ホール

「富川フィル」もここで演奏することになっています。併せて楽しんでみてはどうですか!!

また、小規模なコンサートもできる市民交流室、企画展示室、練習室や会議室等を使用することもできるので興味のある方はお問い合わせください。

JR川崎駅から直結しているので、地の利も申し分なく、ランチタイムコンサートは自由席(¥500)なので、ちょっと時間のある時に立ち寄ることもできます。

044-520-0200 (10:00~18:00)

URL: <http://www.kawasaki-sym-hall.jp>

インタビュー



フチョン
富川市交換職員
イ ユギョン
李 有慶さん

1年間の研修を終えて、富川市に帰りましたが、帰国を前に、川崎市で過ごされた1年間についてうかがいました。

：ご自身についてお話しくださいませんか？

A：私は小学校6年生の時にソウルから富川市へ家族と引っ越してきました。日本へは何度か来たことはありますが、住むこととは違いますから...

：1年間交換職員として働いてこれたなかで一番印象深かったことは何でしょうか？

A：私の研修テーマは「人事制度」ですが、それぞれに違いがあり、興味深いものでした。また、幸市民館の識字ボランティア研修に参加し、普段とは逆の立場でハングルや富川市を紹介した経験は貴重で、とても楽しかったです。

：日本(川崎)で暮らして驚いたこと、心に残ったことなどあれば、お聞かせください。

A：まず、カラスにビックリしました。韓国では街中でそれほど見かけることはないのに、駅前などいたる

所でカラスを見るので驚きました。また、識字ボランティアの方達が日本語を教えてくれる制度にはとても感銘しました。

：2006年度は富川市と川崎市の友好都市締結10周年の記念の年です。これまでの両市の交流のあり方についてご意見をお聞かせください。

A：まず、交換職員の制度等で行政間にも交流があります。また、市民間でも美術、スポーツ、福祉等各方面で交流が盛んです。両市の10年間は10年たったからこそその信頼関係があり、1年目、2年目には想像できなかった成果があると思います。私も帰国後は、交流の架け橋として活動できたらと思っています。

：今後、10年後、両市の交流がどのようになっていることを期待されますか？

A：先程もふれましたが、長い間交流してきたからこそ理解し合えることがあると思いますので、今後も交流が活発に行われることを期待します。特に市民レベルにおけるものを...

最後に「韓国を知りたいと思ったら、一度訪れてみてください。最初は楽しいことしか見えなくても、住んでみたら、もっと深く知ることができます。ただ聞いたことばかりでは偏見を生むものになります。」とのメッセージをいただきました。李さん自身の経験から来る言葉ですね。
(青柳 尚子)